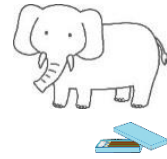


## 踏んではいけない

昔、インパクトのある TVCM で

『象が踏んでもこわれない筆箱』が一世を風靡しました。



クラスで初めて持ってきた同級生は一瞬で「スター」扱い、  
朝からたくさんの友達に囲まれます。  
「見せて〜!」、「ホントにこわれないの?」、「踏んで踏んで」と大盛り上がり。

テンション上がったままの勢いで、なぜか2階の教室の窓から外へ落としてみることに。

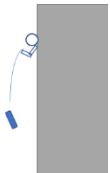
静寂のなか「スター」の手から離れた筆箱が落下、

着地の瞬間飛び散るコンパス、消しゴム、筆記用具、、、  
窓から様子を見ていた全員が「ワー」と

本人も含め階段をマッハで駆け下り筆箱へ  
見るとカドが欠けてヒビも入りキズだらけ。



泣きそうな顔でいろんなものを回収した本日の「スター」はその後表情がなく  
クラスの誰も『筆箱』を話題にしない一日でした。



踏むと言えば、親から「踏んではいけない」と言われていたモノがいくつかあります。

( )内は幼い私の心の声です。

・敷居を踏んではいけない

(家も部屋も入るときには気をつけないと)



・畳の縁を踏んではいけない

(和室ではとにかく気が抜けない、時々大股の変則ステップ)



・座布団を踏んではいけない

(踏まずに座るにはどうしろと、飛び乗る?)



・本を踏んではいけない

(ノートは良いのか?)



・枕を踏んではいけない

(投げてもいいけど踏んではいけない)



・靴のかかとを踏んではいけない

(いまだに靴のかかとを踏むことはないです)

・人の影を踏んではいけない

(学校の朝礼がムリ、自分の影はガンガン踏まれてるし)



それなりに理由や根拠はあると思いますが、子供には少々ハードルが高いものでした。

いまでは、轍を踏まないように気をつけてはいますが、時にルートを踏み外しそうになったり、不安で二の足を踏んだり、知らず知らずに虎の尾を踏んでいたり、最後はだいたい踏んだり蹴ったりになっています。



火災や災害の現場では真っ暗な場合もあり、

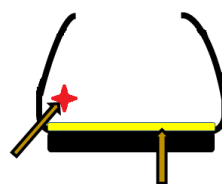


足元のモノをすべて除去しているいとまがないので、クギを踏んでしまう事があります。踏み抜きです。

消防隊員が現場活動で装備する靴は踏み抜き防止が施されていて、ソールの部分の踏み抜き強度が ISO 規格や JIS 規格<sup>(4)</sup>で決まっています。クギ貫通時の力が 1100N(ニュートン)以上とされているようです。



正確ではありませんがザックリ分かりやすく言うと、飛び乗ったり、踏みつけたりはダメで静かに約 112.2 kgの荷重をかけてもクギが貫通しない強度があるのです。



ただし、踏み抜き防止加工がされていない斜め方向からは貫通することがあります。

調べてみると一般向けに踏み抜き防止インソールや踏み抜き防止スリッパが販売されています。1100N 以上の踏み抜き防止が備わった商品もあるようです。

災害時にはクギに限らず割れたガラスや倒れた家具、切り株、堆積物や漂流物、屋内屋外を問わず履物の重要度はとても高いです。

ケガすると移動速度が大幅に低下するうえ、足のケガでは歩行そのものに支障がでます。破傷風をはじめ感染症も心配です。



日常使いが出来るようになっていて、タイプもいろいろでとてもよく考えられていると思います。